

平和への道と代理母

平和への道は生命の尊重を必要とする。母の子宮に宿った時から生命は始まる。それゆえ、新しい生命は抹消されてはならないし、まして闇取引の道具になってはならない。法王フランチェスコは、1月8日、ヴァチカンにある134の国々の大使を集めて、このような話をした。子供を授けてもらうために代理母を用いることは、妊娠している女性、懐妊された子供の尊厳を踏みじめることになる。胎児は、契約して作られるものではなく、神の贈り物にほかならない。法王は、2年前にもカソリックの女性たちの集いの折に「そのような行いは非人間的な行為だ」と述べた。代理母になる女性たちはほとんどが貧しい人である。そのため、子供たちは売買される物として扱われているのだ。法王はまた、第3次世界大戦の可能性についても言及し、戦争はすでにあちこちで起きているので、それらを平和裡に収めていくべきことを強調した。

ワインを称賛

法王がワインの話をするときは、ワイン製造業者達の重労働について話すときである。今回は、特に毎年春にヴェローナで開かれるワイン祭で、その主催者ドメニコ・ポンピッリ氏とヴェローナの司教の力によって法皇の謁見の席を設けることができた。法王によれば、ワインはどんな人の心にも喜びを与えてくれるという。近年、ヨーロッパにおいて、アルコール飲料は癌の下地を作るものとして警鐘が鳴らされている。だからこそ、ぶどうの木の栽培には気を配らねばならない。法王は「ぶどう酒の製造者のことを考えてみよ。彼らは最初の雨と最後の雨を気にしている。それによって出来具合も非常に違ってくる」というヤコブの手紙を引用して、土壌や木の手入れ、アルコールの発酵状態には細心の注意と忍耐を必要とすると述べた。そして、ワインも土壌も、さらに農業技術も農家の経営努力も全ては神の贈り物だと強調した。ヴェローナワイン祭の主催者から、法王の生まれた年である1936年のバローロの本場のマルケーゼのバローロであるマルサーラ・フロリオの両ワインが、法王に贈られた。

テニスは人生に教訓を与える

法王は1月29日にスペインのバロセローナ王立スポーツクラブの代表団を招き、謁見した。このたびのオーストラリア・オープンでは、イタリア人のテニス選手ヤニック・シンナーが優勝して賜杯を手にした。今まで、テニス界を牛耳って来たのは、テニス界のベテラン3人だった。その3人が世界ランキングの上位3位を占めている。シンナーはランキングで4位である。そのベテランというのはフェデラーであり、ロージャーであり、ジョコビッチである。オーストラリア・オープンでは準決勝で、シンナーはジョコビッチにあたり、彼を凌駕した。決勝ではフェデラーにあたり、前半2セットは落としたが、3セット目から3セットを奪い優勝したのであった。イタリア中はおおいに湧いた。その時の2人の選手の年齢差は30歳に及んだという。サッカー好きで知られる法王も、テニスは人生の教訓

を教えるものだと称賛した。

アルゼンチン大統領、法王を訪問

2月11日、法王はアルゼンチンで以前議論をしたことのあるミレイ大統領の謁見を受けた。大統領は真剣な面持ちでローマ法王の前に立ち、その第一声はあなたにキスをしてよろしいかというものであった。法王は快く「息子よ！ どうぞ」と言ってそれを許した。法王は一面において共産主義を認める発言をしていた。逆に、ミレイ大統領は根っからの反共産主義者であった。大統領は、世界が共産主義に染まるのを恐れていたのだ。彼は、地球が減びるまで、共産主義が地上に残っているだろうと説いていた。法王に言わせれば、これは選挙の時のキャンペーンで、そのあとの政権では彼の主張はかなり違ってきていると言う。その後、アルゼンチンのあるシスターが初の「聖者」となり、その任命式が執り行われたが、大統領はその儀式にも参列していた。大統領は現法王がアルゼンチンをぜひ訪問するようにと述べた。以前には手紙で招待したことはあるが、今回は直接、口頭で招待を表した。法王にもいろいろな恩恵があって、アルゼンチンに行くことはなかった。また日程が立てこんでいるので、今すぐとはいかないが、今年度末なら行けるかもしれないと述べた。

大統領は翌12日、イタリアのマッタレッタ大統領と面会し、同日午後にはジョルジャ・メローニ首相と会い、政治問題について意見交換を行った。

多すぎる教皇立大学

ローマにはたくさんの教皇立大学がある。それを統合整理したいというのが現法王の願いである。現在ローマには22の大学と単立大学がある。学生数は1万6千人を数えている。筆頭はグレゴリアン大学で、同大学と天理大学が2回にわたって、双方の教授による「対話」が開かれたことはよく知られている。ここには現在天理大学で教えている森下三郎教授が留学し、勉学を修めたところである。そして、聖トマス・アクィナス大学には天理教海外部に勤務する東井成則氏が通っていた。

これらの大学はもともと「聖書」を研究し、深く学ぶために創設された大学である。1万6千人の学生は、世界125カ国より勉学に来ているのである。この中で、一番古い大学がグレゴリアン大学で、1551年、イエズス会のイグナシオ・ロヨラによって開校された。一番新しいところでは1984年創立の、オプス・デイの聖十字架大学がある。

法王、ヴェネツィア映画祭へ

法王はこの4月に開かれるヴェネツィア国際映画祭、通称ビエンナーレに出席する旨、明らかにされた。これは教皇史の上では画期的なことで、法王が参加するのは史上初めてである。映画祭ではヴァチカンも展示を出す、そのテーマは「外国人はどこにもいる」ということだそうだ。そして、そこでの展示の内容は、「人間の権利と現在のありよう」となるという話である。